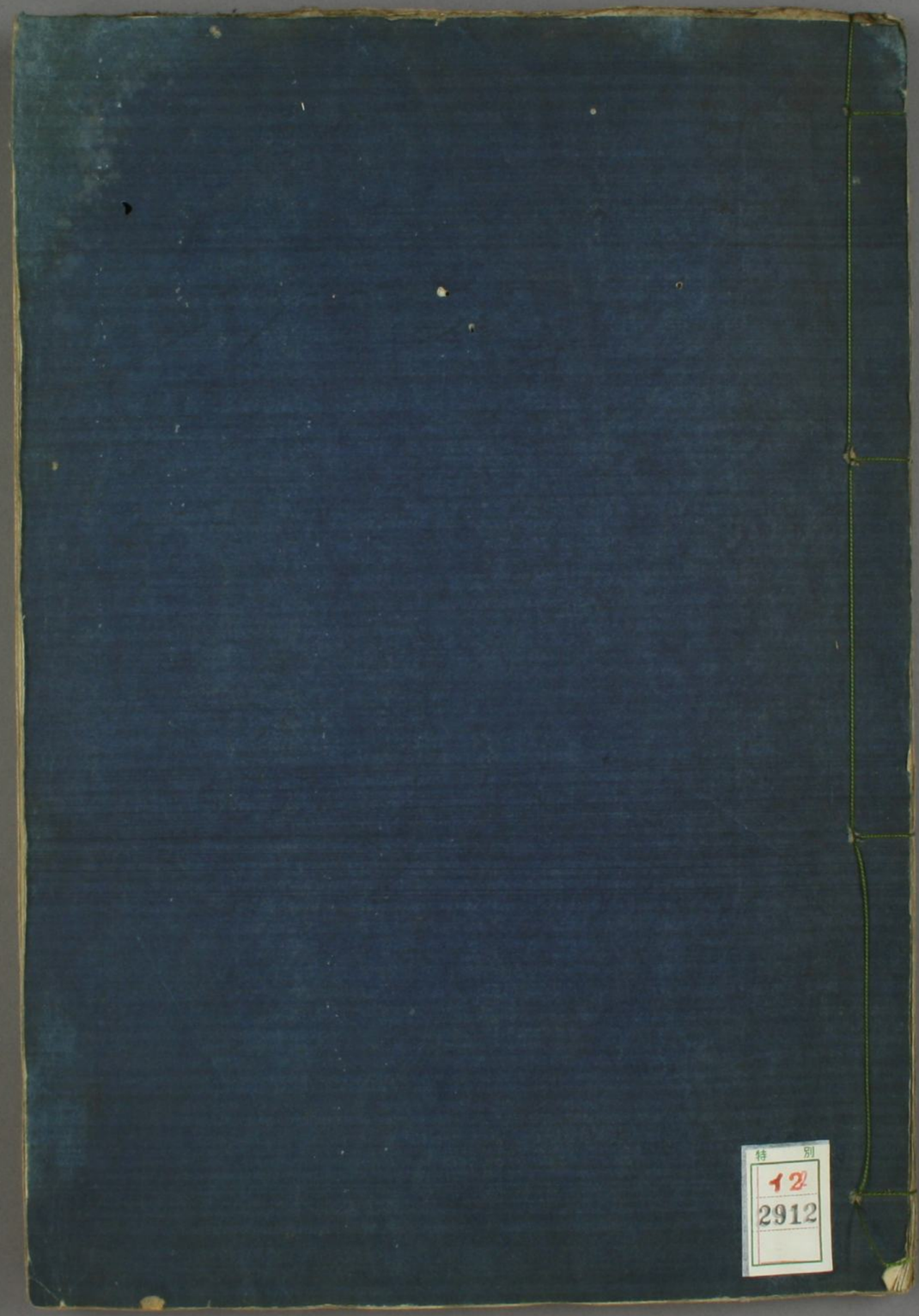

特別
12
2912

12
2912

曽我物語

寛永版

米谷文庫

寛永版　仁勢物語　奥書

抑仁勢物語ハ古今集ニ在原業平朝臣ノ歌多ク載タルヲ取集メ又同時ノ人ノ歌ヲモ交エテ一部ノ物語ニ綴リ成シタルモノニテ其ノ中ニ業平ノ事ヲ記シタル段ヲ以テ名ヲ得タリ又云仁勢業作ノ或ハ云ヒ或ハ云ヒ三十一字書ヲ以テ仮名ノ如ク書ル故ニ仁勢物語ト名ケタリ是故ニ仁勢物語ト此ノ説ニ従フ文字ノ深キ癡ヲ以テ上ト成ス文人推テ難注ヲ附ケ

其自養以
載餌酒
扶元料理
仁勢
是又見先
而知
者何
下向勢

寛永版

仁勢物語

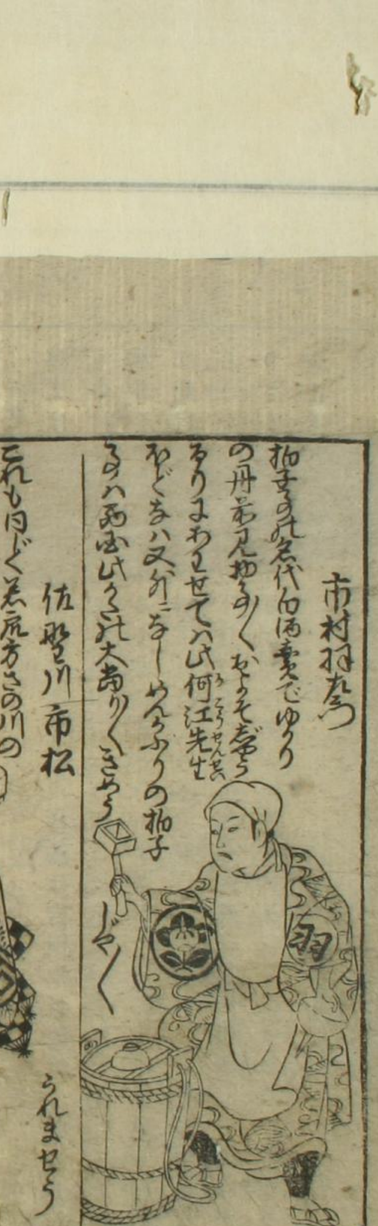
抑仁勢物語、狂言、少人ノ嚶々又同、或人云、盧腹中ノ
間自記云々因茲有平懐男労之詞耳又云仁勢ノ
筆作也或云生年三十壮書之以彼家内ノ紛乱是故
号仁勢物語以此両説一案之更難決之心中擬意
身上、戯言丈人推而難注之可詞耳自書歟
但悲貧賤気食中多載餅酒之哥仁勢右日間
粗記料理之儀此等之事又不鮮仁勢家物其躰唱斜
倩以同之是又見先達法定無遠服休欲両説知之加之
此物語名字非彼筆者何称仁勢乎或説云博奕打
下向勢州仍有此名字其説又難信始則載南京
春日之飲之詞次註洞院正月之針立之思富士山之冷飯
武蔵野之火矢几非勢州事多以為此物語肝心仍両
説共有不審此事只笑焼之事改為此草子之端為叶
仁勢物語之道理也件本労瘴氣毒者也

抑仁勢物語、狂言、少人ノ嚶々又同、或人云、盧腹中ノ
問ノ自記云々因茲有来歴甲劣之詞耳又云、仁勢ノ
筆作也或云、生年三十壮書之以彼家内ノ紛乱ニ昌故
号仁勢物語以此両説一案之更難決之心中擬意
身上、或言丈人推而難注之以之可謂其自書歟
但悲貧賤気食中多ノ載餅酒之事仁勢在日間
粗記料理之儀此等之事又不鮮仁勢家納其躰喝斜
倩以同之是又見先達法定無遠服休欲両者知之加之
此物語名字非彼筆者何ノ称仁勢乎或説云情実打
下向勢州ニ仍有此名字其説又難信格則載南京
春日之飲之詞次註洞院正月之針立之思富士山之冷飯
武蔵野之火矢ノ几非勢州事多以為此物語肝心仍而
説云有不審此事只笑焼之事改為仁勢物語之道理也件本労瘡氣毒者也

明鐙社

市村羽左衛門

拍子ものゝ名代白浪重宝でゆり
の舟あり見物もの〳〵おゝそぎやう
をりよわるせてハ八何江先生
わざをハ又外二をーゝふうの拍子
るハ面白けれ大あたりくきやう〳〵



佐野川市松

これも同じく若衆方さの川の
座府とて六条聖山ハ
もちろん形容ハ
ひゞゝそうじてう
氏神わふぎやう

うれませう

沢村宗十郎

三味せんとふひいて今もろげる
三八ぶおとろの男ぶり宗十とハ
よろこびをゝーもの月日ぜいが
出さうバ五月のあやめのころのものまでもろ仕日おり

松山三十良

ゞ人いろ〳〵ーうとおりへれくい
どうけうーやぐもありまそ
さりとハてうろうろ三役
おるぶもの役までもうさん
あつてのそうみむあさんじやこの仙丈

正徳年代
赤本一あくま
はらひ金平の
さし絵ハ羽川
珍重ふるべし

あくまはらひ金平

正徳年代
赤本一あくま
はらひ金平ぬ
さー名画工羽川
珍重ふるべー

御前義経記

慶應義塾図書館

「野郎雛形」挿絵
吉田半兵衛筆
跡

貞享年代
野郎雛形

万太夫座 狩山千之亟

万太夫座　松山千之亟

女式　上

序

女式　上

序

本の中

右件掌ニ有之候ハヽ
ひ飛不
ニよつて御
ニ而も
ニ國狼籍
ニ付

千時貞八享和三歳
戊辰三月吉旦
作者 森枝町住人
友成
江戸日本橋壱町目
川添七郎右衛門板

序

享保二年

國姓爺明朝太平記の序

江島其磧作

人称店よハ軒
張貫ハ虎が三
和名抄よ遊従
衣裳繪屋淨土
ゐて古まより
ハよりて毛唐
よ髪ハいろ

揉う哥舞妓いろよ
商人も売一官ち銭とりうけてちらきのふね
和哥内外見貝しるやう
座うしぬ予め又云いきれ云とりまそむしやう
よ処ちいま捕ともと書集て亡老とし
嬰児乃魁州とのふ帝し

享保二酉八年
そうい月日

作者
其磧

自笑樂日記巻之五

第一

川橋音頭

同孫

家をいる君を仰ぐ我出世のつぎ

実来ひ

目錄

京うら町ゑびす十九町 八文字屋八左衛門藏板

武徳鎌倉旧記 十冊
風流神仏曽我 五冊
同 東鑑 五冊
頼朝三代擬倉記 五冊
西海太平記 五冊
今川一睡記 五冊
名所焼蛤 五冊
風流宇治拾遺 五冊

清明白狐王 五冊
大内妻入金の事 五冊
當流曽我高名松 五冊
日本頓性始 五冊
當世信玄記 五冊
百姓盛衰記 五冊
高山三代壮士 五冊
女曽我兄弟鏡 五冊
女将一七人化粧 五冊

生世拔虎者語 五冊
女郎會稽山 五冊
記錄曽我 五冊
浄伽平家 五冊
風流扇軍 五冊
北條時老一女櫻 五冊

富士淺間裾野桜 五冊
三浦大助節分曽 五冊
都鳥妻恋笛 五冊
丹前ゑびす髭 五冊
恵漢物冠女茶始 五冊
高砂大鳴蟲 五冊
風流軍配團 五冊
風流東海硯 五冊
風流西海硯 五冊

業好一代記 五冊
若衆壽門松 五冊
忠者壽二面鏡 五冊
丹波与作宮間鐘 五冊
武打双級巴 五冊
名玉女森狩 五冊
女非人綴錦 五冊
長盛祇園橋 五冊
女盛曲輪錦 五冊
鎌倉諸藝袖日記 五冊
雷神不動桜 五冊
薄雪奇和滝 五冊
敦盛源平桃 五冊
野狩盃 五冊
都傾城系圖 五冊

四書集註 道春点 十冊
諷本 百番謡 其外一冊本有七冊
八千代百人一首 一冊
庭訓往來 一冊
御成敗式目 一冊
神西女用文章 一冊
當用手本 一冊
草木太平記 二冊
今様花紋帳 三冊

正徳雛形 五冊
享保雛形 三冊
西川雛形 五冊
太平圖繪 二冊
風流日本荘子 五冊
笑嗇太平記 五冊
弓張月曙操 五冊
鎌倉繁栄廣記 十二冊
阿蘭陀三巴 五冊
今昔出世扇 五冊
勧進帳繰芸操 五冊
曽根崎情歌 五冊
繪本池水東童 三冊

於國分森妙 五冊
風流東大全 五冊
奥州軍記 五冊
傾性曲三味線 六冊
傾性色三味線 五冊
浮世親仁形氣 五冊
野白内證鏡 五冊
野傾色好 五冊

女男伊勢風流 成本合二冊
墨筋若色好 成本一冊
傾性玉子酒 五冊
傾性奇二味線 五冊
傾性奇三味線 五冊
傾性野 五冊
風俗傾性 三冊
風流於雛形 三冊
風流連理操 三冊
若恵方扇 三冊
曦太平記 五冊
義經風流鏡 五冊
傾性當照君 五冊
楠栗注禮操 五冊
藻倉実記 五冊
分里雛形 五冊

一　頓城雪我の事
二　修験祖師の事
三　軟熱病の事
四　河漢二色実験の事

茅屋夜話　序

頌城雑談

一之巻　目録

一　頌城雪我の事

二　修験祖仙の事

三　乳熊嶺の事

四　河津二郎実義の事

一　頌城雪我の事

二　修験祖仙の事

三　乳熊嶺の事

四　河津二郎実義の事

大總
貸本

南總里見八犬傳第六輯巻之三

東都　曲亭主人編次

書房
大總

第五十五回

馬大記賺言して途ゟ龍山を窮せしむ
栗飯原滅族せられて里ゟ犬坂を送せ

品七を與ふ果して馬加が隠悪の長物くりを時を移せば小文吾耳を側そ感嘆
膝の進むを覚えず春の日も良々ぞくり。稚くとも侮るべからず。當下品七ゟ小文吾が投て
生せし茶を遠くも喫く。縁類のほとりも多。扇を把く膝ふ突進う程ゟ馬加
大記常武がその夜態心の若黨ぞ。あやこもへ差向さ。栗飯原亂度が起行や否と
ふとそ遣せしその兵詰見帰て栗飯原厥ハ黎明の比主従大約十人許村
裝を整へて栗橋のうへ勅紀あひぬと報らば常武ゟくも頷きこの日赤坂の
城ゟ伺候して。時政の安否を訊まゐせば自嵐對面あるべきものハ侍れ

大總
貸本

年ごろ物の委曲を知るがゆゑに、己が職者の服ゟ遁れ、懶ゟの心をもて有の侭なる茅屋の
夜話と題するのこと　しかし

宝暦五乙亥年

己亥の春

自叙

牛若丸
牛力士
うし力士
牛力士
自若として小文吾暴れ牛を駐む

天縁奇遇巻之上

神屋蓬洲画作彫刻

武　神屋蓬洲述並画

今の普人皇百三代後花園院の御宇享徳筆六月京都の将軍義教公赤松満祐が領地を分つて赤松貞村と与を給ふ〳〵ものゝ〳〵満祐此こと憤り遂よ義教公を殺し奉る是よ仍く官領磯川持之畠山持國義勝公を即き奉り軍勢を催ほし彼の満祐が播州白幡の城を攻〳〵めらるゝ私九月といへる遂よ落城して満祐の舎弟教康赤松一門と赤松左エ門尉常祐とものり天性慧智思と励ふ義を

事とく塵效の支あく克忠思を廻〳〵満祐謀反の刻も度〳〵諫爭もくがらくも更よ肯を用ひざるを其不義なるを悲く世と暇〳〵て播州一谷の山麓よ引籠り家の子郎等よりくるくく皆ちらくくく暇を乞て只常姫と名づけ〳〵三歳なる幼子とやしなひ既下なる赤松忠之丞春時なるもの一人を伴ひ〳〵春時の妻よ咲花と云る節婦の誉れ有て我昔よりの五戈ものり子息ありて共よ常祐よ附〳〵主従をとゝのへ心もにくからず比山中の春秋を営ふ時よ京都の逆臣鬼塚道見とゝもの亦て常祐が仁義を妬る本性なるを心よ忍嫌居らるゝが頃日常祐一の谷の山中よ引籠り彼の亡る満祐が恨を報ぜんとあ密よ軍勢を駆催〳〵て京都を攻〳〵とゝろ〳〵の由聞めと短を求めく満奏よ及びくふべ将軍嵯峨をのひく直よ鬼塚道見と

天縁奇遇巻之上

東武　神屋蓬洲述並画

第一齣

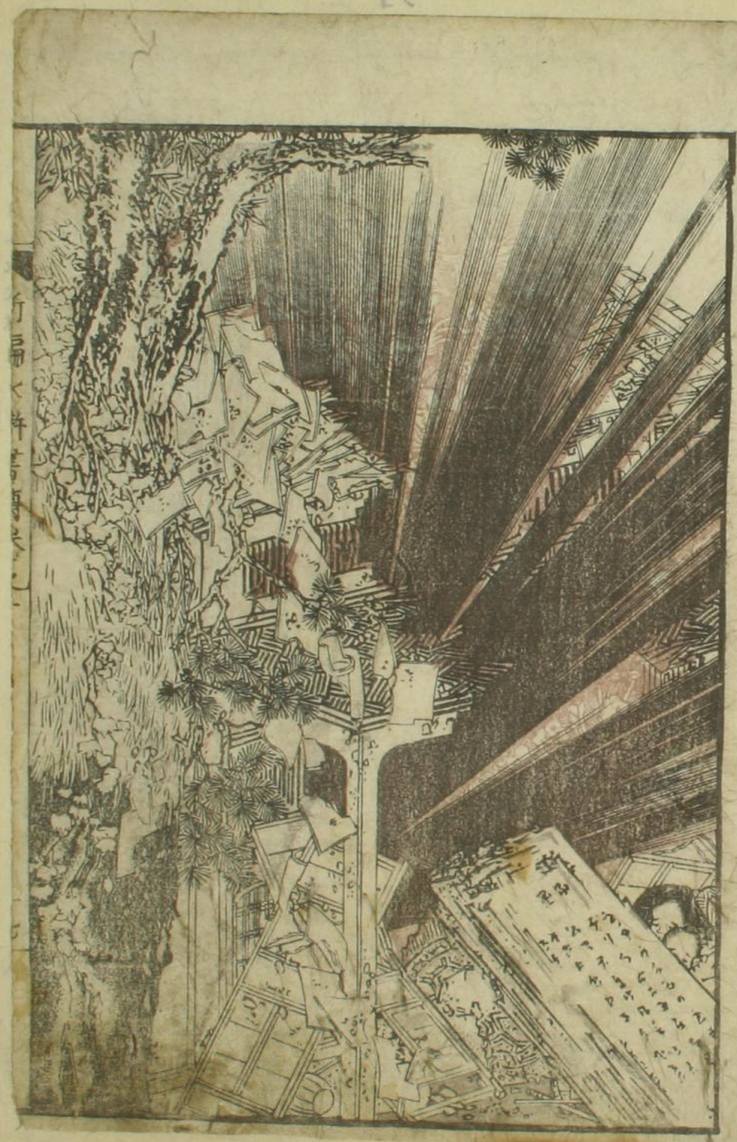
今の[illegible]人皇百三代後花園院の御宇[illegible]嘉吉元年六月京都の将軍義教公赤松滿祐が領地を分つて赤松貞村[illegible]を[illegible]ーよ滿祐此[illegible]を憤り遂に義教公を殺ー奉る[illegible]ーよ管領磯川持之[illegible]山持國義勝公を[illegible]り軍勢[illegible]ーそ彼の滿祐が播磨白幡の城を攻ーめらるゝ[illegible]九月[illegible]遂に[illegible]城ーて滿祐の[illegible]中に自殺[illegible]ーて一門[illegible]赤松[illegible]門[illegible]常祐[illegible]

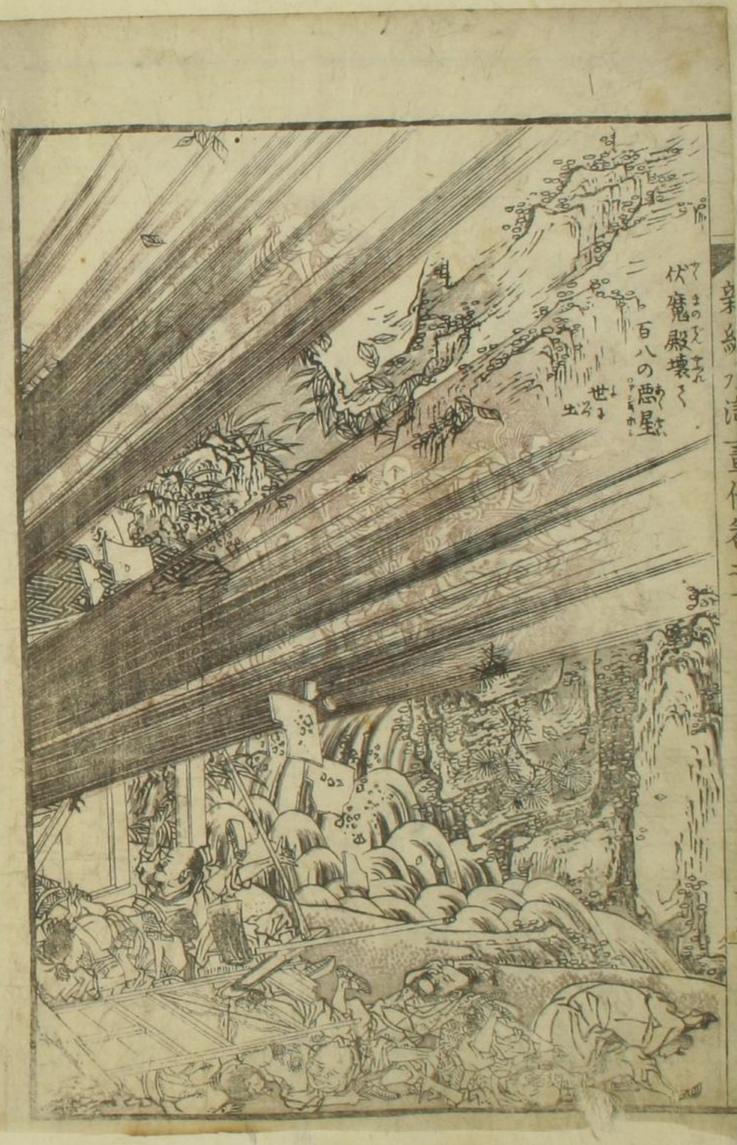
事[illegible]塵芥の[illegible]克[illegible]思[illegible]廻ー滿祐謀反の刻[illegible]ー諫[illegible]爭[illegible]ーらるゝ[illegible]更に[illegible]用ひざるのみ[illegible]其不義[illegible]を憑[illegible]ー[illegible]播州一谷の山[illegible]引籠り[illegible]家の子郎等[illegible]ーて[illegible]皆[illegible]ーく[illegible]曝[illegible]ーて只常姫と名づけー三歳[illegible]忠之丞春時[illegible]もの一人を[illegible]ー倶ー[illegible]節婦の[illegible]ーて[illegible]昔[illegible]五戈[illegible]主従[illegible]ーり心[illegible]ーて[illegible]山中の春秋を[illegible]ー[illegible]時[illegible]京都の逆臣鬼塚道見[illegible]もの[illegible]ーて常祐が[illegible]義を[illegible]る本性[illegible]を心[illegible]居[illegible]ーが頓日常祐一の父の山中[illegible]引籠り彼の亡[illegible]滿祐が恨を報ぜんため密[illegible]軍勢を駈催ー[illegible]京都を攻[illegible]ーて[illegible]の由聞[illegible]短[illegible]求めく滿[illegible]奏[illegible]及びくれば將軍[illegible]驚[illegible]のひく直[illegible]鬼塚道見と

常姫
米吉
沙ヶ島南
海惡鳥攫
虎姫

春時
咲華
灘之寫居咲華慰春時問

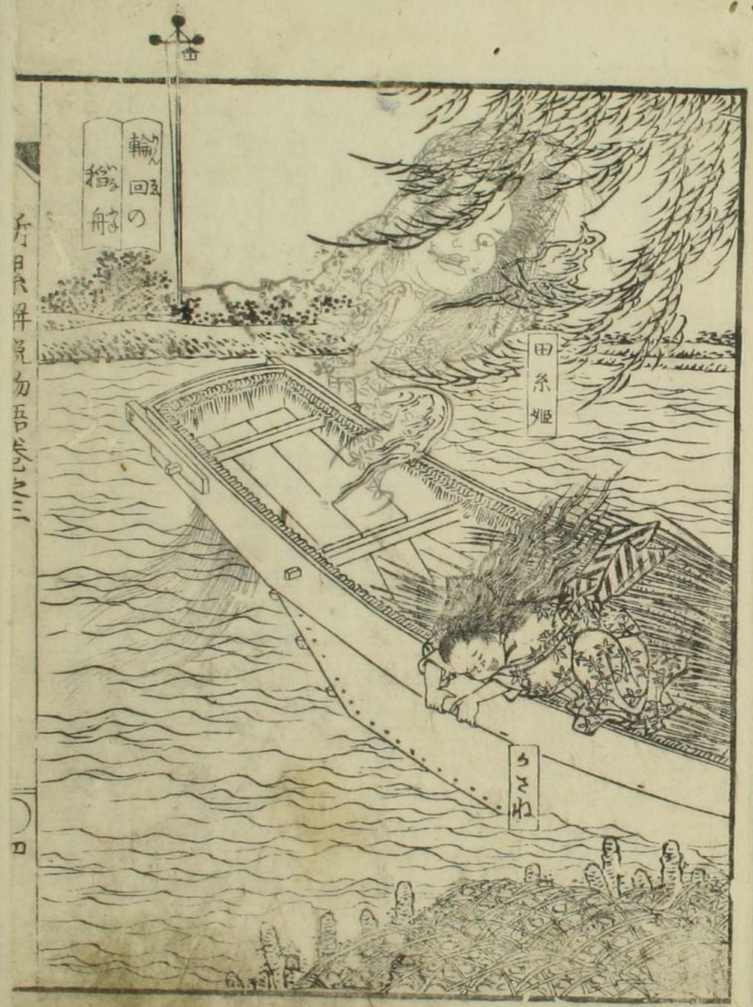
萬姓熙熙化育中三登之世樂無窮豈知禮樂笙鏞治變作兵戈劍戟裝水滸寨中毛節俠梁山泊內聚英雄細推治亂興亡數盡屬陰陽造化功




伏魔殿壊く
百八の悪星

通幾乃軒斜
羽生與左衛門

送梅甫迴雲間雪間也
單到真入庄


輪回の船
田糸姫

与左衛門

高尾千字文

娘政岡

凡例

善知傳　序文二章
　善知鳥考一條
　本文二十四回
　繡像四十七圖
　全部六册

此稗史文化二年乙丑冬醒醒老人之所編也繡像畫者一陽齋豊国也
文化三年十二月一日　仙鶴堂發兌

柚角九介
千葉ノ介成
馬加ノ介弥三
琴
犬坂毛野龍智
いる妃
ありの通原
若葉ノ香
照姫

鉄子
大伴黒主之助
桜田金平太
畔貞九郎
女郎花
時平
重

艶而節操
命薄情篤
劈身仆讐
返璧塵玉
同
節婦

大村大角礼儀
小字角太郎
泉

近世誌異少年録 第三輯 五

七ツ情女
盤絲洞

発保八歳丁酉孟春發兌

西遊記

岳亭丈岳譯 四篇

畫本 十冊

嵩飾戴斗画

牛魔王と悟空戦

黃石公
博浪沙頭恨未消
幣秦踣頂不終朝
漢家四百年宗社
開關洪基在此橋
韓張良

秦の大將軍
章邯
國の為小忠戰ふく百勝を得
誰の為小身危く楚小降く
苦辛ハ可惜英勇の名を埋

莅土　葛飾卍老人　八右衛門画圖

莅土　鷦鷯貞高　長次郎纂述

莅土　櫟齋阿部喜任補正

北越　遊學子　菊堂執筆

淨書　谷　金川

仝　素軒梅叟

仝　瀧野音成

東都画工　葛飾爲一卍老人

弘化二年乙巳正月吉辰發行

大阪書肆　河内屋茂兵衛

須原屋茂兵衛

江戸書肆　岡田屋嘉七

山城屋佐兵衛

大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛版

V62992